

月の娘のカルト

The Cult of Moon Daughter

(Steve Maurer 氏の“Cult within the Lunar Empire”、そして Greg Fried 氏の Salalun cult の記述に感謝します)

これはグレートシスターとして知られている、“待つ月 (the Waiting Moon)” の英雄カルトである。彼女のカルトの様式は神秘的で、あいまいであり、多くのルナーの民にとって未知の物である。ほとんど公式の寺院が無く、寺院に比例した礼拝 (注1) だけがグラコラドントの外部のルナーの儀式で月の娘に行われている。礼拝は月の息子である皇帝のカルトが、皇帝の姉妹が地表世界 (the Surface World) を優雅にすることで、主従関係を与える時の聖祝期において特に行われている。彼女は月の上のパネギ (Panegi) の宮殿にいとされている。その英雄カルトは勧誘によってのみ入信できる。

カルトはカルサル君主領の首都グラコラドントに住むグレートシスターを崇める。君主領は皇帝ターケン・エギの個人的な贈り物として彼女に与えられた。土着のラスターリ・イニングー門は彼らの指導者として彼女を承認することを強制され、一門の高位の貴族はすべてカルトの一員である。噂によると、彼女はルフエルザとイエラムの娘であるが、彼女の真の出生については知られておらず、カルトの秘密である。彼女は 5 / 3 3 (太陽暦 1496 年、イエラム暦 112,496 年) に皇帝の宮廷に現われたとして、既に多くの財源と情報源が知られざる源にわきにそらすものとして多くの噂が落ち着いている。(意識としては、「多くのでどころを持つ噂があるが、大体において、彼女は (中略) 現れたものとして、落ち着いている。」といった感じか?) グレートシスターは公に自身の指導者は皇帝ではなく、赤き月だけが自身の指導者であると誓っている。彼女は皇帝が進んで渡す時は、皇帝からの金銭、魔術、援護を要求する。現在の赤の皇帝の仮面、マグニフィカス帝は彼女の“姉妹”に対して、寛大であるというよりほとんど媚びている状況である。皇帝の最近の仮面はそんなに寛大ではなかった。結局兄弟姉妹の関係は絶え間無い政治的、軍事的、宗教的な力の課題となる。彼女の生まれの噂には、一小作農、オーランス、シェン・セレリス、赤の女神自身、そして赤の皇帝 (!) というものも含まれている。それはその全てが誤っていそうに思える。

グレートシスターは、彼女の仕様書により 5 年間で完成するように命令された彼女の都市の中に行方をくらました。その都市は奇妙にも、厳格な構造を組み合わせた風のルーンのようなオーランス人の建てる都市を真似た裏返した螺旋の構造にするよう、命令された。その構造のデザインとスタイルは 125 年間変えられておらず、グラコラドントの建築の声明書はどのような石製の新たな建築物を違法であると示している。大半の人々はこの都市を計り知れない魔力の焦点のある型として建てられた物であると思っている。最たる建築物であるシスターの宮殿は、アニーラの蒼き一筋 (the Blue Streak of Anni la) の出現場所として言及されているマガスタの水溜まりの方を向いている。最近、ホワイトウォールの陥落により、新たな建築物がデザインされ、今や建築の準備をしている。建築物は都市の創立以来 100 年以上都市の中心部にあった空白地を満たす。それよりも多くの空白地がシスターの未来の計画を示した都市のあちこちに存在する。新たな建造物はサーターとターシュの間のいずれかの位置に建てられるであろう。シスターは非常に希にしか現れず、2 回の公の登場をしただけである。一つは彼女が宮廷に到着した時であり、もう一度は「恐怖の夜」(the Night of Horrors) の後である。それ以外は、彼女の英雄カルトだけが彼女にまみえる機会を得る。

シスターは「月の風」という軍を設立した。200 名だけから構

成されているが、彼らの半分がルーンレベルの戦士であり、また彼女が強力なルナーマジックにより彼らを援助する。彼女の軍は《月の風》と呼ばれる強力なヒーロークエストの集団呪文を呼び出す。軍の司令官は彼女の子どもであり、5 年毎に交代する。引退した子どもらは 2 度と見られる事が無く、その子どもらはできるだけ一度の生涯のうちに多くの人々となるための彼女のヒーロークエストでの単なるグレートシスターの化身であると、主張される。

この英雄カルトは特殊である。それは貴重な少量の魔術を与える。その魔術は、他のカルトの些細な儀式化された儀式よりも、実際にヒーロークエストの為に役に立つ。ヒーロークエストが危険でなくなる為に、彼らは 1 季を費やす。彼女が与える呪文は、《空の聖域》《月の歌》《空の光景》である。カルトのある地位でそれらの呪文が再使用可能になるような事はない (? または、「カルトのメンバーの有している地位によらず、それらの呪文は再使用可である。」。)。儀式のたびに、呪文の為に生け贄となる事を望む入信者により完成されなければならない。司祭は呪文の生け贄となる為のチャンスを入信者に滅多に与えようとはしない。司祭になる為の明言された必要条件はなく、シスターはランダムに見える流儀で彼女の選んだ入信者を司祭位にする。信仰生活の長い者も短い者も同程度のチャンスがある。一時に 7 人の司祭が存在し、彼らは人里離れた場所でそのほとんどの時間を過ごす。彼らは全員グレートシスターの妻や夫であり、けれどもその関係はほとんど常に独身者である。司祭らは通常の財政的な計画と同様に都市のある程度の魔術的な儀式を職務で行う。

英雄カルトに参加する方法は以下の通りである。志願者は 3 つの外套の人物に話を持ち掛けられなければならない。一つは青いマント、そして赤いマント、残りは黒いマントである。それらの人物はとし伝説として知られており、多くの人々は“月の 3 人組”に遭遇するのは十分な幸運だと話している。彼らは希望者のところへやってくるが、常に一人で、何も喋らない。その人物達が毎回同じ人なのか、実際はロープの中は司祭であるか、それともその噂の両方が本当なのかどうかははっきりしない。誰もが知っている“月の 3 人組”の話がある - 志願者が自身の誠実さを納得させる為に“月の 3 人組”を嘲ったり、真似たり、装ったりすることは致命的な罪であるという話である。また以下の話についても知っている - “月の 3 人組”は志願者を目隠しをせず、グレートシスターの宮殿の中心へと連れて行く。それ以降、儀式の詳細は知られていない。カルトのメンバーは史よりも悪い何らかの苦痛について何が起きたのかを明かす事は決してない。志願者は参加を望んだ者だけが選ばれるが故に、参加を拒絶する事はない。

志願者は信者の地位によって異なる場所に内部に私室を与えられる。志願者は跪くように言われ、自身が見つけたり、知らされたり、守っている全ての秘密を思い出さねばならない。志願者はそれぞれの秘密の対象に立ち向かわねばならない。例えば、父親を殺したという秘密を持った志願者は父親と立ち向かわねばならない。志願者は実際に肉体的な損害に直面するのではないが、幾人かは狂気に陥る (そしてその後奴隷兵団 (the Slave Legions) へと送られる)。グレートシスターはその無限の力で彼らの秘密を知っているが、その秘密に対して報復を求めるような事はない。もしあなたが父親を殺したならば、そうなる。もし父親との対面する事に耐えたならば、それは罪に耐えた事になる。ひとたびカルトにもたらされた全ての秘密は、カルトで共有しなければならない (聖日ごとに全ての入信者は彼らの秘密を集会で公表する)。この後、儀式的刀剣が前に持ってこられ、志願者ははらわたが抜き出されると言われる。志願者が行うまで、集まっている人々は必要とされる限り長く待つ。ひとたび彼らが自殺行為を犯したならば、彼らは超現実的な仮死状態に入る。ここで、グレートシスターは出現し、少量の月の石と混ぜ合わせる最高の物を味わう為に彼らが望む物なら何でも与える。この時点で志願者は“死亡”し、シスターに 3 点の POW を捧げる。そ

の後、彼らは満足感、疲れ、眠さを感じながらシスターの部屋で目覚める。ただ単に、ほとんどの志願者が、司祭がきて彼らの神性についての説明を新しい入信者に説明する前に部屋を去っていく“月の娘”の一瞥を受ける。全ての入信者は自分らが目覚める事で啓発され、通常は3、4週間、ラシヨーランとナイサロールの寺院で彼らの新しい精神的な状態によって条件を達しようと何とかする事に時間を費やすことを悟る（彼らが啓発の全ての力を持っていることはありえないことに注意する事）。

基本的なカルトの義務も含めカルトへの義務は、10%の時間と収入を捧げる事、都市の出入りの際1MP捧げる事、都市の中の秘密と活動について調査し、報告する事である。しばしば入信者は彼らの得た情報を受け取る為に司祭により特殊な《精神結合》に就かせられる。入信者は時折意図のハッキリしない奇妙な儀式に従事したり、罰としてアイテムを手に入れる為に使命、特にグラマーおよびノ又は青の月平原での物、を経験する。入信者はしばしばレフェルザ、皇帝、シスター、そしてより一般的には世界に関して（ミッションを）行う事で、カルトの深い秘密を知る事になる。多くの秘密を知った入信者はグラマーに送られ、聞いたところによると、月の住人の僕として月へと送られる。

グレートシスターはグラコラドント全体、ヒョルトランド、エルマルカルト（? Kheimal Cult）、ラルツァカークへのトラストール大使館員、そしてカルマニア宮殿の全てにスパイを有している。関心事と目標は聞いたところでは、オーランスとフマクトはもちろん、全ての月と関係のあるカルトの関係である。儀式は不特定の時期に行われ、まれに聖日と一致する。彼女の聖日は七母神と同様である。彼女は復讐の精霊 t¥を持たず、離反者の存在は聞かれた事が無い。

英雄カルト特殊呪文

《空の聖域》 Sky-Sanctuary 3ポイント

自身、持続、複合不可、特殊

この呪文を唱える時、術者は空の上に描かれた青い光の花の中にバラバラになる。術者は呪文が終了するか、任意の時に、術者が去ったその地点に戻る。上空から、術者は上昇前に掴んでいた視界を取り囲んだ空間を見ることが出来る。もし術者が選択したなら、自分の寺院に再具現化できるが、この場合は一回限りの呪文となる。

《空の光景》 Sky-Sight 1ポイント

100m、持続、複合可、再使用可

この呪文は呪文1ポイントにつき100m真上に対象の視界をずらす事が出来る。術者は360度彼女の視界を回転させる事が出来るし、通常の視界と空の視界を切り替える事も出来る。Line of Sight（訳注：どこかの呪文か？）だけがこの方法の対象とする事が出来る。

《月の歌》 Moon Song 3ポイント

50m、持続、複合不可、再使用可

この強力な呪文は、エレメンタルの恍惚の為に使用される。術者は効果範囲内の各エレメンタルのMPにたいして自身のMPで対抗する。呪文が働くには、術者は1d100を振り、自身のMPで抵抗表の結果と比較しなければならない。打ち負かされた全ての対象は、影響を受ける。影響を受けたエレメンタルは恍惚とし、呪文の持続時間中何をするにも無能となる。一部の例外が月の精霊で、術者の命令に反応する。これを唱えた時、力強い歌がかすかな歌声のような音が大気中に聞こえる。

注1) 原文でこの部分は、以下のように記されていた。

「only preparatory worship...」。前後の文と、推量より、preparatory という単語はつづり間違いであるとの結論に達し、似たような単語

で意味の通る「proportionally」（訳：比例して）を採用した。